



## 生まれるとき「へそのお」を切っても、血は出ないの

赤ちゃんの体は、「へそのお」でお母さんにつながっている

「へそのお」は、おなかの中の赤ちゃんとお母さんをつなぐ、管のたばです。

赤ちゃんは、自分の体に必要な酸素や栄養など、すべてのものをおなかの「へそのお」の中の、血管の中を流れている血（血液）を通して、お母さんからもらっているのです。

しかし、赤ちゃんは、お母さんのおなかの中から出て、産声をあげると同時に、自分で呼吸をするようになり、お母さんから、「へそのお」を通して送られる血も、ストップします。そのため、生まれたときに「へそのお」を切っても、血はほとんど出ません。

赤ちゃんの体は、「へそのお」でお母さんにつながっている

赤ちゃんの「へそのお」は、お母さんのおなかの中にある、「たいばん」につながっています。「へそのお」の中には、動脈と静脈という血管があり、静脈の中を流れている血液を通して、赤ちゃんに必要な栄養はお母さんから送られます。そして、赤ちゃんのいらなくなったものは、動脈の中を流れている血液を通して、お母さんにわたされ、お母さんが、捨ててくれているのです。

ですから、おなかの中の赤ちゃんが体を成長させたり、生きていくのに必要なものは、すべて、「へそのお」を通して、お母さんからもらっているのです。（監修・保志 宏）

